

講義名	公務員特別演習			授業形態	
担当教員	河辺 有希生 / 森脇 文子		開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2時限	
	単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード PSC240

主題と概要

【目的】
公務員特別演習は、公務員を目指す全学部の学生を対象とする、1年後期(演習Ⅰ)から4年前期(演習Ⅳ)まで一貫したプログラムである。「究極のサービス業」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支えるやりがいのある大きな職業である。しかしながら、公務員試験は競争が激しく、この演習を受講したからといって容易に合格できるものではない。また知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人材も求められてはいない。すなわち公務員になるには、自ら考え、仲間とともに正解のない問題に挑戦できる総合的な人間力が求められる(まさに本学が掲げる「ネオカノのひのへ」にたれず」の精神をもった人材)。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効果的に継続できるように、様々なヒントを段階的に与えることで、公務員を目指す諸君をサポートしていくものである。

【内容】
2年生前期の公務員特別演習Ⅰでは、次の目的意識のもとで授業を行う。
(1)自治体の組織や公務員の職務に関する基礎的・具体的な知識の修得
(2)目指す進路(希望職種)を定めるための情報や知識の修得、理解の深化
(3)公務員試験に対応できる知識やスキルの上昇

到達目標

- 現在の社会課題・地域課題について理解し、自分の言葉で他者に伝えることができる。
- 公務員として働くことの社会的責任や使命について自分の言葉で説明できる。
- 自分自身が目指す進路を具体的にイメージし、それを達成するための課題を明確に意識できるようになる。
- 同じ目標をもつ仲間との議論を通して、課題解決にむけて主体的に関わる力を身につけることができる。

提出課題

- 授業時に使用するワークシート
- 社会・地域課題のワークシート
- 教養課題のワークシート
- 社会・地域課題のテーマに関するプレゼンテーション(授業時間内での発表)資料

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題については、次の演習の際に通員講評する。
対話やディスカッション、発表については適宜フィードバックを行う。

評価の基準

提出課題(ワークシート等)：約60%、テーマ発表：約20%、議論への参加(発言)：約20%
合計100点満点で評価する。
自分の考えを積極的に言語化し、話し言葉、書き言葉で他者に伝えることが評価求められる。

履修にあたっての注意・助言他

・この演習は、真剣に公務員を目指す学生を対象とするものであり、理由なく遅刻・欠席しないこと。
・公務員試験は競争が激しく、本演習の学習のみで合格できるほど甘くはない。本演習はあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。
・学内の公務員試験対策講座(有料講座)等の受講、もしくは外部専門学校を受講(ダブルスクール)を強く推奨する。
・「基礎技能Ⅰ」以外の関連する「正課授業」も、順次、履修することが望ましい。
・(共通)法学入門、経済学入門、政治学、財政学、地域まちづくり概論、防災まちづくり論、業界研究(盲行演)
・(行政職志望)民法A・B、憲法、政治学、財政学、行政学、地方行政論、地方財政論、経済数学、ミクロ経済論、マクロ経済、NPO論
・(公安職志望)基礎技能A(数的処理)

公務員特別演習(Ⅰ～Ⅳ)は、1年後期(演習Ⅰ)から4年前期(演習Ⅳ)まで一貫したプログラムであるが、「公務員特別演習Ⅰ」(本演習・2年前期開講)から編入することも可能である。編入希望者は、1年後期に実施するガイダンスに必ず参加すること。

教科書

最強の公務員試験対策「論文・作文本」(公務員試験 教養試験対策)(公務員のライオン)(最強の公務員試験対策シリーズ)	キャリアード合同会社	1980	4911062061
------------------------------------------------------------	------------	------	------------

参考図書

その他

教科書に加え、講義、プリントを配布する。
外部講師による授業の際にも、別途教材やプリントが配布されることがある。

授業計画

- ガイダンス+社会・地域課題の導入
＜予習120分＞公務員特別演習Ⅰで学んだ内容を復習する
＜復習120分＞授業の方針・計画、社会・地域課題への取り組み方について復習する
- 演習(インプロ)ワークショップ(全回)+外部講師
＜予習120分＞公務員特別演習Ⅰで体験した演劇(インプロ)ワークショップの内容と心の変化について振り返る
＜復習120分＞ワークショップを体験して、考えたことや新たな自己発見を記録する
- 論文文の書き方+社会・地域課題
＜予習120分＞論文文で前時に指示があった項目を調べておく
＜復習120分＞講義での教養演習の内容を解けるまで復習、課題文の内容を自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 教養試験対策+社会・地域課題
＜予習120分＞独自の教養試験の問題集で前時に指示があった項目の見直しをする
＜復習120分＞講義での教養演習の内容を解けるまで復習、課題文の内容を自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 教養試験対策+社会・地域課題
＜予習120分＞独自の教養試験の問題集で前時に指示があった項目の見直しをする
＜復習120分＞講義での教養演習の内容を解けるまで復習、課題文の内容を自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 実務者講義(行政職、准公務員管理委員会)
＜予習120分＞実務者講義の市町村について、場所・人口・課題など調べる
＜復習120分＞講義での具体的な課題や対策について、自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 論文文の書き方+社会・地域課題
＜予習120分＞論文文で前時に指示があった項目を調べておく
＜復習120分＞講義での教養演習の内容を解けるまで復習、課題文の内容を自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 教養試験対策+社会・地域課題
＜予習120分＞独自の教養試験の問題集で前時に指示があった項目の見直しをする
＜復習120分＞講義での教養演習の内容を解けるまで復習、課題文の内容を自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 実務者講義(公安職の仕事内容について調べる)
＜予習120分＞実務者講義の公安職の仕事内容について調べる
＜復習120分＞講義での公安職の職務や具体的な課題や対策について、自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 教養試験対策+社会・地域課題
＜予習120分＞独自の教養試験の問題集で前時に指示があった項目の見直しをする
＜復習120分＞講義での教養演習の内容を解けるまで復習、課題文の内容を自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 教養試験対策+社会・地域課題
＜予習120分＞独自の教養試験の問題集で前時に指示があった項目の見直しをする
＜復習120分＞講義での教養演習の内容を解けるまで復習、課題文の内容を自分の言葉で表現できるようにまとめる
- 演劇(インプロ)ワークショップ(全回)+外部講師
＜予習120分＞演劇(インプロ)ワークショップの内容と心の変化について振り返る
＜復習120分＞ワークショップを体験して、考えたことや新たな自己発見を記録する
- ミニ講義「志望理由・面接」+志望理由を書き
＜予習120分＞独自の志望理由を整理し、箇条書きで言語化する
＜復習120分＞志望理由の書き方・ポイントを復習し、自分の志望理由書を作成させる
- テーマについて考えを発表
＜予習120分＞これまで学んだテーマについて、見直し自分の言葉で課題・解決策について文章化する
＜復習120分＞他者の発表から学んだこと、新しい視点などを決めて、再度テーマにつけてまとめる
- テーマについて考えを発表
＜予習120分＞これまで学んだテーマについて、見直し自分の言葉で課題・解決策について文章化する
＜復習120分＞他者の発表から学んだこと、新たな視点などを決めて、再度テーマにつけてまとめる。また、講義を通して学んだこと、さらなる課題を文章化する

上記のスケジュール、内容は変更の可能性がります。
授業の基本は、教養試験対策を2割、社会・地域課題についての学習が6割、ワークショップ2程度になる。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は以下のディプロマ・ポリシーと関連する。
【流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】
(1)「ネオカノのひのへにたれず」の精神をもった人材
(2)知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
(3)創造力、新しい視点と豊かな発想を持った人材
(4)自主・自立の精神を持った人材
(5)仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
(6)豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるための基礎能力

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

地域・社会課題について理解したこと、自身の考えを互いに発表し、深めていく授業である。また現役公務員の方との直接的な対話や質疑応答、ディスカッションを実施する。

実務経験の有無及び活用

両名とも「実務経験なし」

備考
